

アートの楽しみ方

平成30年度で9年目を迎える栗島芸術家村事業。今年も栗島では2人のアーティストが創作活動に取り組んでいます。島民の皆さんとの交流を通して、アートの島で何が生まれているのか。笑顔あふれる創作現場取材しました。



Artist 大小島 真木さん

東京都出身。2017年2月から、フランスの科学探査船タラ号にアーティストとして参加。

Artist マユール ワイエダさん

インド出身。インドの少数民族ワルリ族に伝わる、部族アート・ワルリ画の継承者。

今年5月から、栗島で創作活動に取り組んでいるアーティストが、大小島真木さんとマユールワイエダさんです。

大小島さんは、昨年2月から1カ月半の間、フランスの科学探査船タラ号に乗船して作品を作ってきました。今年5月に仁尾マリナーナタラ号が来航した時には、その作品展を開催。また、マユールさんは、紀元前3300年から続く部族アート・ワルリ画の継承者の一人。伝統ある手法を用いた作品を生み出しています。

縁あって栗島にやって来た2人。島での生活にも慣れてきた中で、創作活動が進んでいます。

訪ねた日は、島民の皆さんに作品づくりを手伝ってもらう日でした。アトリエの日々の笑学校には、十数人もの人が集まってきており、「マキちゃん、マユちゃん」と親しまれる2人との作品づくりが始まります。

「部族に伝わるワルリ画は文字の機能を持っています。この伝統的な表現方法を使って、栗島に住んで感じたこと、島民の皆さんと共有したことを未来へ伝えられるようなストーリーにしていきたいと思っています」

この作品では、部屋一面がキャンバスとなり、マユールさんの視点から捉えた栗島が、ワルリ画と、木の彫刻、映像の3つで表現される予定です。



▲大小島さんの作品では、大きなクジラを作ります。この日はヒレの部分に厚みを持たせるため、綿を入れていきました。島民の皆さんは必要な材料を家から持ってきたり、知恵や特技を生かしたりと、全面的に協力します

島民のみんなとアイデアを出し合って

大小島さんのアトリエには、壁一面に大きなクジラが2匹。1匹はタラ号乗船時に制作したもので、もう1匹は現在進行中。この日は島民の皆さんと、2匹目のヒレ作りに取り掛かりま

物語を描いたクジラが栗島に流れ着く

大小島さんが制作しているクジラには、胴体に人や植物が、らせん状に交わるように描かれています。

「タラ号に乗船してから、海について考えるようになりました。そこで、海の生物であるクジラに、人や植物をコラーージュのように紡いで物語を描きました。この作品では、人と生物の境界が曖昧なこと、私たちは



▲黒板塗料を塗った壁に、マユールさんが栗島の海を描いていきます。魚の色塗りは島民の皆さんとの共同作業



▲ワルリ画とは、米粉や牛糞を使って描く絵画で、線の色には白しか使わないのが特徴。モチーフの形や使う道具も決まっています

History 栗島芸術家村のこれまで

ア参加アーティスト

2010年 9月12月(第1回)

栗島へ若手芸術家を招いて創作活動を支援するとともに、地域の活性化を目指すとうと、香川県と三豊市の共同で栗島芸術家村事業がスタート。アトリエとして旧栗島中学校の活用が始まる。

ア三浦高宏さん、山田果林さん、井上唯さん

2011年 4月7月(第2回)

ア戸田祥子さん、ルカ・ロマーさん、ロザノ・キャサリンさん

9月12月(第3回)

ア岩岡純子さん、富田紀子さん、森田洋美さん

2012年 4月7月(第4回)

ア杉原信幸さん、田村友一郎さん、水谷一さん

9月12月(第5回)

ア佐々木類さん、麻生祥子さん

2013年 6月9月(第6回)

ア久保田沙耶さん、中島健さん、濱野貴子さん

10月11月

瀬戸内国際芸術祭2013秋会期に、栗島が初参加。

2014年 7月10月(第7回)

栗島芸術家村事業が三豊市の単独事業となり、総合ディレクターにアーティストの日比野克彦さんを迎える。

ア岩田とも子さん、松田唯さん

2015年 7月10月(第8回)

ア松田唯さん、木村衣里さん

2016年 4月6月(第9回)

ア八田綾子さん、青木春菜さん

10月11月

瀬戸内国際芸術祭2016秋会期に参加。

2017年 5月8月(第10回)

ア菊地良太さん、森山泰地さん

2018年 5月8月(第11回)

ア大小島真木さん、マユール・ワイエダさん

入村式



島民もアーティストも みんな作品を創り上げる

アーティストの創作活動に協力を惜しまない島民の皆さん。主に活動を支えている2人に話を聞きました。

アーティストが制作に 集中できるように

2人のアトリエで、せつと手を動かしている男性がいました。話を聞くと、毎日夜10時まで作業を手伝っているそうです。



▲「いつもは夜8時に寝るけど、アーティストがいる時期は、11時過ぎになるなあ」と、連日夜遅く作業を手伝う佐藤哲士さん

ると、アーティストが徹夜しよるのがかわいそうだな。少しでも楽に進められるようにと思つて、今年は早いうちから手伝いよんや」と佐藤哲士さん。アーティストが作品づくりに集中できるようにと、道具の受け渡しや作業の下準備など、制作環境を整えることに努めています。

「佐藤さんは、何でも手伝ってくれて、本当に大助かり！」という大小島さんの言葉に、「ADみたいなもんやな」と笑います。

栗島芸術家村を みとよの宝にしたい

「美術館では見られない作品が栗島で生まれていくのが、いつもすごく楽しみなんよ」



▲当初から芸術家村を支えてきた松田悦子さんいわく、「栗島は若手アーティストの登竜門やね！」



▲アーティストの創作活動を、一人ひとりができる範囲でサポートするのが栗島スタイル

松田悦子さんは、芸術家村事業の開始当初からアーティストを支える中心的役割を担っています。「私は栗島の人材派遣会社みたいなもんよ(笑)」というほど、作業の人集めでは頼りに存在です。

「私たちのモットーは、島の人みんなで作品を作ること。でも、これからは栗島の人だけじゃなく、みとよのみんなで作品づくりができたらええなあ。芸術家村を、みとよの宝に育てていかな！」

栗島はアートのおもしろさに 気付く場所

アートって難しい？敷居が高いもの？そんなイメージを変えてくれるきっかけが栗島にあります。

美術^{うつくし}だけじゃなく 考え方^かを見てほしい

「アート」というと、絵の上手さや技巧の美しさに注目してしまうかもしれません。でも、栗島に来てアーティストから作品の話を直接聞くと、彼らがどのように思考を表現しているのかを見るのがアートではないかと気付きます。

「アーティストがどんな視点でモノを捉えているのかを作品から読み取ってもらうと、見る人も自分とは違った視点を持つことができます。モノの見方を広げられるのがアート。その表現に至るまでの考え方を教えてください」と大小島さん。会話の中で、「アートは目で見る哲学」という言葉も出てきました。そう考えると、自分の中のアートの定義が変わってきます。栗島で、その瞬間を感じてみてください。



栗島芸術家村 滞在作家展

日時 8月19日(日)~26日(日)
午前10時~午後5時

場所 日々の笑学校
(旧栗島中学校)

内容 アーティストの大小島真木さんとマユールワイエダさんが、栗島で創作した作品の展示を行います

問い合わせ 産業観光課 ☎73-3013

栗島汽船の時刻表などは
こちらをチェック▶



栗島のみんなが元気でいきいきしているのは、
芸術家村があるおかげ。
「日々の笑学校」の名前の通り、毎日、
笑顔が絶えない中で、作品が生まれています！

滞在アーティストによるワークショップを開催しました



7月14日(土)、栗島の「日々の笑学校」でワークショップが行われました。参加した20人は、大小島さんとマユールさんとともに、インドカレーを作り、味わいながら食についての記憶を話し合いました。また、マユールさんの作品である、ワルリ画の制作にも挑戦しました。

インドカレーは作るどころから。食べ物と人間の関係性を考えました